



礼拝

シリーズ～新約聖書入門～

2017/6/11

「礼拝」とは

- 日曜日の朝の教会の集まりのこと？
 - 週1回1～2時間だけ
 - 原型はユダヤ教のシナゴグ礼拝にあり
- 旧契約(律法)においてはいけにえを献げることが礼拝だった
 - 贖罪が礼拝の基盤であり中心だった
 - 決められた場所で決められた方法で

ローマの信徒への手紙12章1節

「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」

～新契約においては～

「自分の体を」「いけにえとして献げる」ことが礼拝だ➤いつでもどこでも礼拝できる!

十字架の恵みを無駄にしない

- 「こういうわけで」とは“キリストが完全ないけにえとなって下さった”わけだから
 - 「ただ一度イエス・キリストの体が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです。」ヘブライ10:10
 - せっかくいけにえが不要になったのだから
- 「兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます」
 - “(独り子を与えられる程の)神様の情熱に燃やされつつ嘆願する”>パウロの必死の願い

神に喜ばれる聖なる生けるいけにえ

- 「神に喜ばれる」

- 私たちは「自分を喜ばせる」ことが第一！
- 何が神に喜ばれるか判断するのは難しいが、そのことをいつも考えていることが大切

- 「聖なる」

- 罪から離れ、純粹な心で主に向かう

- 「生ける」

- 「自分の体」を使い、普段の生活の中で、実際の行動により主に仕える
- 「礼拝」と訳されている言葉は「**奉仕**」の意

ローマの信徒への手紙12章2節

「あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにしておいて自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。」

～「なすべき礼拝」のためにどうすべきか～

この世に倣ってはなりません

- 「この世」は神の御心に反している
 - 「世も世にあるものも、愛してはいけません。なぜなら、すべて世にあるもの、肉の欲、目の欲、生活のおごりは、御父から出ないで、世から出るからです。」1ヨハネ2:15~16
- 「倣う」とは“型にはまる”こと
 - この世に暮らしていると、この世の考え方に染まってしまう
 - 情報が氾濫している現代は、特に注意していなければならない!
 - ・ 「みんながやっている」から正しいわけではない

神に変えていただきなさい

- 「心を新たにして」
 - 常に「頭の中」を原点に戻す(フォーマット)
- 「自分を変えていただき」なさい
 - 自分で変えるのではなく、**変えていただく**
 - 生きている間は“リフォーム”され続ける

何が神の御心であるか

「何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるか」

- 善い: 神の国において価値がある
- 神に喜ばれる: 自分ではなく(2回目)
- 完全: 成熟した
 - ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、**成熟した人間**になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。エフェソ4:13

何が神の御心であるか

「何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるか」

- 善い: 神の国において価値がある
- 神に喜ばれ、また完全なこと
- 神の御心とは限定的な選択のこと < 答えは1つ >

ではなく、むしろ方向
《 答えはいくつもある 》
のことである！

。ついでに、私たちは神の子である信仰と知識において、神の御心となり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。エペソ1:4-5

礼拝者として生きてゆく

こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。**自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。**これこそ、あなたがたのなすべき**礼拝**です。あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにしておいて自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。